

トップメッセージ

Top Message



グループのシナジー効果で 持続可能な社会の実現を

株式会社フジ・メディア・ホールディングス

代表取締役会長 嘉納 修治

Chairman and Representative Director

Shuji Kanoh

フジ・メディア・ホールディングスは、社名にメディアという言葉が入っているように、人と人をつなぐものがメディアであると考えています。映像、音声、活字、広告などに限らず、通販も、不動産や観光も、人の心を豊かにし、人と人をつなぐ媒体となるものがすべてメディアです。グループ各社がメディアであることが私たちグループの最大の強みです。

私たちは「つなげる笑顔 つながる心 メディアの力でできること ∞（無限大）」というCSRスローガンの下、それぞれの事業領域において社会課題の解決に責任を果たそうと活動しています。またグループ各社の連携でシナジー効果を発揮しながら、事業を通してステークホルダーの皆様とともに発展し、最も支持され、信頼されるグループになることをめざしています。

何事も継続していくことが大切です。2016年4月に起きた熊本地震をはじめ、被災地の復興、防災の必要性は、日本の特定の場所だけにとどまりません。東日本大震災からの復興をめざす目的で始まった「ずっとおうえんプロジェクト」、「こども笑顔プロジェクト」「支えたいプロジェクト」等これまで継続的にやってきた支援活動の経験を、この先も役立てていけるような息の長い活動を続けたいと考えています。そしてメディアグループとして、地球全体の環境や持続可能な社会の実現に貢献できるような熱い思いを皆さんと共有し、世の中の人々の幸せにつながる新しい価値の創出に挑戦し続けます。

嘉納 修治

Contents

トップメッセージ	01
CSR活動方針	02
グループアウトライン	03
【特集】熊本地震の復興支援活動	05
社会のために	07
災害復興支援	16
次世代育成支援	20
環境のために	24
マネジメント体制	27
財務サマリー	32

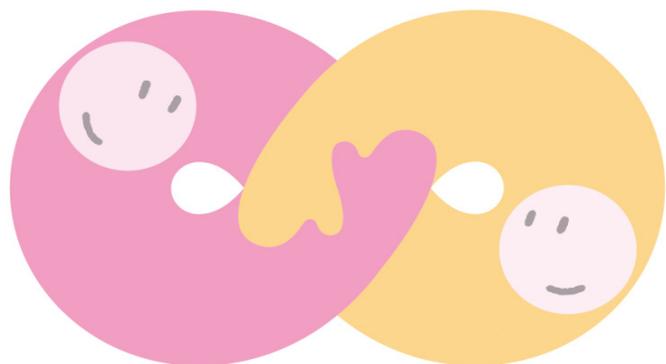
編集方針

本レポートはフジ・メディア・ホールディングス各社が2016年4月1日から2017年3月31日までに行ったCSR活動をまとめたものです。（一部2017年4月に行った活動も含まれています。）2016年度も、主たる事業である放送とエンターテインメントを活かして、多岐にわたる活動を行ってきました。本書はそれらを読みやすく、皆様にご理解頂きやすいよう編集し、まとめたものです。ご意見、ご感想などがございましたら是非お寄せ下さい。

フジ・メディア・ホールディングス CSR推進室

 csr.ss@fujitv.co.jp

CSR共通スローガン



つなげる笑顔 つながる心

メディアの力でできること∞
無限大

フジ・メディア・ホールディングスは
多様なメディアの集合体です。

各社業態は異なりますが、
共通する思いは

「創造する力」を通じて
人と人をつなぎ
笑顔をつくること。

社会の一員として
どんな社会課題の解決に結びつけられるかを
常に考え、行動し続けます。

CSR活動方針 〔CSR=Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任〕

フジ・メディア・ホールディングスのCSR活動は、その長期的ビジョンの達成を図り、視聴者・聴取者・読者・利用者・消費者、株主、投資家、取引先等を始めとする国民各層の支持を頂き、フジ・メディア・ホールディングスの持続的な成長を確保するための活動です。

そのため、フジ・メディア・ホールディングスはグループ・ガバナンスの構築、グループ・コンプライアンスの確保を図り、適時・適切な情報開示を行いながら、視聴者・聴取者・読者・利用者・消費者の皆様等の顧客満足度の向上、経営環境の変化に対応した新たな企業価値の創造をめざして、事業活動を通じた社会への貢献、地球規模の環境保全や身近な環境活動を積極的に進めていきます。

活動体制

フジテレビジョン/BSフジ/ニッポン放送/共同テレビジョン/フジクリエイティブコーポレーション/ NEXTEP /フジアール/フジ・メディア・テクノロジー/ポニーキャニオン/フジパシフィックミュージック/ディノス・セシール/サンケイリビング新聞社/クオラス/サンケイビル/扶桑社/フジミック/エフシージー総合研究所/フジキャリアデザイン/18社とフジ・メディア・ホールディングス本体の計19社で、CSR推進委員会を年に1回開催しています。またその下部組織・CSR推進連絡会議を年4回開催し、CSR活動の報告や今後の展開を議論しています。

大切にしている柱

Materiality

社会のために
災害復興支援
次世代育成支援
環境のために

グループ各社紹介

認定放送持株会社（株）フジ・メディア・ホールディングスは、放送・制作・映像音楽・生活情報・広告・都市開発・出版／情報（その他）の7つのグループ、全21社の中核子会社からなるメディアグループです。

放送グループ

フジテレビジョン



「めざましテレビ」



© 2017「心が叫びたがってるんだ。」製作委員会
© 超平和/バスターズ

フジ・メディア・ホールディングス傘下企業の中核をなすテレビ放送局（1959年3月1日開局）。"トータル・コンテンツ・ファクトリー"として、地上波デジタル放送・CSデジタル放送・動画配信といった多メディア化や、スマホ・タブレットなどの受信端末・視聴者ニーズの多様化に対応すべく多様なサービスを提供。朝の情報番組「めざましテレビ」「とくダネ！」などが好調な他、映画では2016年度邦画興行ベスト10にフジテレビ映画3作品がランクイン。この夏、最も泣ける青春映画「心が叫びたがってるんだ。」は7月22日に公開です。

BSフジ

1998年12月に設立されたBSデジタル放送8チャンネル。2000年12月の放送開始以来多様な番組を送り出してきました。2009年に放送開始した「プライムニュース」は2000回を越え、政財官学のトップらが出演する看板番組となっている他、2017年春に「クイズ！脳ベルSHOW」が月～金の帯番組となり第二の看板番組に成長してきました。また、売上・営業利益ともに2015年度から2年連続無料BS局1位を達成。2018年12月のBS4K放送開始に向けた準備を進めています。



「プライムニュース」



「クイズ！脳ベルSHOW」

ニッポン放送

1954年7月に開局した、関東広域圏を放送対象地域とするAMラジオ放送局（周波数1242kHz）。2015年12月7日よりFM補完放送（ワイドFM／周波数93.0MHz）も開始し、サイマル放送を行っています。代表番組は「オールナイトニッポン」、試合開始から終了まで完全実況生中継でお届けする「ショウアップナイター」等。ワイドFM開始から2年目を迎え、パソコンやスマホでラジオが聴ける「radiko」でタイムフリー／シェアラジオの実証実験を開始し、新しいリスナー獲得に貢献。ラジオ局として初めて「H!nt」というラジオハードの開発に取り組み、2017年に商品発売。



(株) 仙台放送 他

オールナイトニッポン

広告グループ

Quaras

グループ唯一の広告会社として、得意分野であるエンターテインメント分野、コンテンツ事業分野、イベント事業分野での強みを活かし、あらゆるコミュニケーション・サービスに対応した広告展開をクライアントに提案。東京国際映画祭等の国際イベントの広報・運営、また映画試写会、各種音楽イベント等国内外のイベント・プロモーション業務を多数実施。クリエイティブ分野の提案も積極的に行っています。「クオラス」となって10周年。

(株) 共同テレビジョン

ドラマ、情報、バラエティ、ドキュメンタリー等のテレビ放送番組の企画、制作、販売を行っています。スタジオ・中継制作技術、撮影、録音などの技術業務及び映像制作に加え、編集、特殊映像効果なども行い、代表番組は「くいしん坊！万才」「世にも奇妙な物語」等。高画質4K対応機器も充実。

フジアール

FUJIART, INC. 放送番組、イベント、催事等の美術制作、企画。番組、映画、CM等の映像美術制作会社。「お台場みんなの夢大陸」「トータル」等のイベント設営も行っています。

fmt

フジテレビを中心にテレビ番組の制作・技術協力、照明、送出業務を行っている総合制作技術会社。民放各局や、スカパー！等BS/CS各局の番組制作にも協力しています。

制作グループ

FCC

フジクリエイティブコーポレーション

事業の柱は番組制作・番組販売・番組マネジメントの3つ。業務としてはテレビ番組やイベント制作、国内外への番組販売、フジテレビ系列局支社代行、各種営業、メタデータ整備、権利処理業務といったコンテンツ関連事業など多彩です。地上波、衛星波のみならずインターネット配信など時代の変化に対応しています。

NEXTEP

2007年7月設立のテレビ番組制作会社。地上波、BS・CS放送のみならず、ネット配信、WEB動画等におけるコンテンツ開発、DVD、PV等パッケージソフト制作も手がけています。フジテレビ「その原因、Xにあり!」「ユアタイム」BSフジ「プライムニュース」等数多くの番組を制作。

他

映像音楽グループ



ポニーキャニオン

1996年10月に設立した映像音楽パッケージソフト・コンテンツの企画、

制作、販売会社。声優育成やVR事業など新たなマーケット開拓にも取り組んでいます。2017年はミュージカル映画「ラ・ラ・ランド」の日本での配給権等の権利を企画段階から交渉し獲得。43億円超の大ヒットになりました(動員310万人突破)。米国を除くインターナショナル興収でも第1位。



© 2017 Summit Entertainment, LLC. All Rights Reserved. Photo credit: EWOOD1: Sebastian (Ryan Gosling) and Mia (Emma Stone) in LA LA LAND. Photo courtesy of Lionsgate.

株式会社 フジパシフィックミュージック

1966年3月設立。音楽著作権の取得・管理・開発業務、音楽原盤・放送番組・映像コンテンツの企画制作、作詞家・作曲家・アーティストのマネジメント業務を行っています。国内外のスタンダードからヒット曲まで約40万曲を扱っており、オリコンチャートベスト20を飾った楽曲は1,000曲以上にのぼります。2016年は大原櫻子初の日本武道館2daysライブを開催。

他

都市開発グループ



サンケイビル

ビル事業(開発・賃貸)・住宅事業(マンション分譲・賃貸)・ホテルリゾート事業(開発・運営)・シニア事業(開発・運営)を主に行っている総合不動産デベロッパーです。オフィスビル『S-GATE赤坂山王』『S-GATE大手町北』『X-PRESS有楽町』を2016年12月以降にオープンさせました。2016年度、分譲マンション『ルフォン』は692戸を分譲、シニア施設も全6施設となりました。



(株) グランビスタ ホテル&リゾート 他

生活情報グループ

株式会社 ディノス・セシル

2013年7月に株式会社ディノス(1971年創業)及び株式会社セシル(1972年創業)が合併し、株式会社ディノス・セシルがスタート。テレビ、カタログ、EC等の多彩なチャンネルを通じて、リビング、ファッション、美容健康、食品等の商品をラインナップする総合通販事業を展開しています。また、通販事業のノウハウ等をベースに、フラワーネット事業、催事・店舗事業、法人向け事業、保険事業、海外事業なども行っています。「ディノス」「セシル」とも2016年度で創業45周年目。2017年3月ディノスより30~40代女性に向けたリアルクローズを展開する新ファッションブランド『So close,』がデビュー。



サンケイリビング新聞社

1971年創業創刊。女性向けフリーペーパー発行を軸に「総合女性マーケティング企業」として、女性、地域、企業、それぞれと密接な関わりを持ち、生活を豊かにするトータルサポーターとしての役割を果たすことを企業理念としています。リビング新聞、シティリビング、あんぷあん等女性を対象とした生活情報紙誌の発行及び関連するプロモーション、Web事業。また、全国4万名の女性組織を有し、SP・広告全般を行う女性リビングプロシード、市場に関する調査・分析を行うリビングくらしHOW研究所をグループに持っています。創業創刊45周年。



他

出版・情報その他グループ



1984年に株式会社リビングマガジンから株式会社扶桑社に商号変更。定期雑誌、書籍、ムックなどを発行する総合出版社。

近年では電子書籍やネットニュースなども本格的に展開。ESSE、SPA!など定期雑誌8誌、グループ関連本ほか話題の書を多数発行。菅野 完著「日本会議の研究」が発行累計18万部突破のヒットとなっています。



株式会社 エフシーシー総合研究所

日用品、家電品、食品、化粧品、環境改善商品等の検査・研究。生活科学に係る基礎研究を学会発表するとともに、テレビ・新聞・雑誌などで一般の方々へも情報発信。食品表示システム「食品大目付そうけんくん®」は300社以上の食品メーカーで採用され、企業の広報向け危機管理セミナーも開催しています。

(株) フジゲームス、Fujisankei Communications International, Inc. (FCI) 他



株式会社 フジミツク

グループで唯一のIT企業。フジテレビをはじめ、グループ内外の多くのお客さまに対し、システム開発やコンテンツ制作、ネットワーク構築など、様々なITサービスを提供。2017年4月よりテレワーク制度を導入し、多様化する社員や顧客のワークスタイルにも対応しています。

株式会社 フジキャリアデザイン

日本エグゼクティブセンターとフジ人材センターが合併した人材サービス会社。派遣、紹介、業務請負等、幅広い人材ビジネスを手がける。2012年現在の「フジキャリアデザイン」に社名変更。

熊本地震の復興支援活動

2016年4月に発生した熊本地震を受けフジ・メディア・ホールディングスでは、放送をはじめ各社が連携を取り、それぞれの特色を活かした支援活動を行いました。

フジ・メディア・ホールディングス全社共通

フジネットワーク サザエさん募金

熊本県と大分県の人々を支援するためフジテレビをはじめ多くのグループ企業が「サザエさん募金」を放送やホームページを通じて募金を呼びかけました。

期間中に皆様から寄せられた募金の総額

1億7,262万8,295円を日本赤十字社へ

義援金として寄付しました。

実施期間 2016年4月18日～5月31日



©長谷川町子美術館

サンケイリビング新聞社

「支えたいプロジェクト」



熊本地震被災者の生活を支援するために、ネットワーク共通の募金口座を開設し、各リビング新聞紙上で告知しました。

総額 **418万6,702円**を、熊本リビング新聞社を通じて

熊本県へ寄付しました。

参加社 リビング新聞ネットワーク各社

実施期間 2016年4月17日～2016年12月13日

各社の活動

ニッポン放送

ラジオ500台を寄贈した他、リスナーの皆様からの義援金**1,088万9,991円**を熊本へ寄付

ディノス・セシール

下着類約2,500枚他を南阿蘇村に寄贈。売上の一部等**728万1,724円**をサザエさん募金に寄付

BSフジ

4月22日に益城町の女子サッカークラブにベンチコートとTシャツ約300枚を送り、クラブが各避難所に配布。さらにDVDも提供

FCC

テレビ熊本制作のドキュメンタリードラマ「絆を通した種山石工・橋本勘五郎」制作協力がんばれ！熊本キャンペーンスポットを制作

ポニーキャニオン

避難所にDVDを寄贈

サンケイビル

熊本地震義援金**1,000万円**を寄付

ディノス・セシールからの支援物資



BSフジ

『東北魂TV 2017新春！復興応援旅SP in 熊本！！』

“笑いで東北を、日本を元気に！”をテーマに、東北出身のお笑い芸人が爆笑コントやロケを繰り広げる『東北魂』企画を、熊本復興応援旅スペシャルとして実施。熊本グルメや温泉・観光名所を巡る道中では、「くまモン」も緊急参戦しました。

[2017年1月4日 22:00～23:55 BSフジにて放送]



フジテレビCSR推進プロジェクトチームでは、2011年から継続している被災地復興支援活動「ずっとおうえんプロジェクト」の一環として、2016年度は熊本地震の復興支援活動を重点的に行いました。ニーズに合わせ、エンターテインメントの力で笑顔と心の潤いを提供しました。



5月2日 「テレビが見たい」という要望を受け、熊本県阿蘇郡西原村と嘉島町の避難所2ヶ所にテレビ・DVDデッキ・DVDを届け、アンテナを設置。視聴可能な環境を整え、エンターテインメントの力で心の潤いを提供しました。



この「テレビを届けた活動」が、
 娯楽番組を通じたストレスの軽減や、
 情報孤立回避等につながったとして、
 総務省・中央非常通信協議会より表彰を受けました。



5月30日 上益城郡の中学校女子バレーボール部3校を訪問。女子バレーボール日本代表のサイン入りボールとバボちゃんグッズ計100点以上を届けました。



うちのキャラクター
 どっこくん



11月・1月 八代市の保育園、嘉島町の幼稚園、テレビ熊本の「こども博」のステージで食育出前授業「ハロー！どっこくん」を開催しました。



6月12日 嘉島町の避難所で『アイアンシェフ』出演の一流シェフたちが温かいお料理約800食を提供。CSRメンバーやアナウンサーなど各部署から16人が炊き出しに参加しました。



©長谷川町子美術館

8月・3月に『サザエさん』上映会を上益城郡御船町と阿蘇郡西原村、熊本市内の城東小学校にて実施。「サザエさん」も登場し、みんなで歌を歌ったり写真を撮ったりしました。

CLOSE UP !

熊本城修復のため ドローン映像を無償提供

フジテレビが上空からドローンで撮影した熊本城の映像に、石垣などが詳細に映っており、「熊本城の修復が年単位で早まる可能性がある」との専門家の声を受け、すべての空撮素材を無償提供しました。[この映像は2013年にANAの機内オリジナル上映番組のために撮影したものです。]



社会のために

Contribution to Society

視覚障害者のためのチャリティを40年以上継続

フジ・メディア・ホールディングス全社共通



「第42回 ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」

目の不自由な方が安心して街を歩けるように「音の出る信号機」を設置するキャンペーンとして、1975年にスタートし、2016年で42回を数えました。ニッポン放送をはじめ全国のラジオ局11局が、毎年12月24日正午から翌12月25日クリスマスの正午まで、番組を通じて募金を呼びかけます。今回の24時間パーソナリティは斉藤由貴さんがつとめ、最終募金額は、**7,165万6,137円**となりました。



このラジオ・チャリティ・ミュージックソンへの協力をフジ・メディア・ホールディングス各社の有志で毎年継続しています。2016年は、14社から38人が参加し、募金の電話受付と屋外ステージでの街頭募金活動を行いました。

- パーソナリティ：斉藤由貴
- 実施日：2016年12月24日正午～25日正午
- 募金受付期間：2016年11月1日～2017年1月31日

最終募金額：7,165万6,137円

1975年からの合計募金額は 44億2,119万1,470円

これまでに

3,057基の
「音の出る信号機」が
設置されました。



番組等を通じてパラスポーツの魅力を発信！

『PARA☆DO!』

パラスポーツ専門番組を放送

PARA☆DO!

毎週水曜 22:54～23:00
フジテレビにて放送（関東ローカル）

東京パラリンピックの会場を満杯にしたい！『PARA☆DO!』は、2020年に向けてパラスポーツのムーブメントを起こし、障害の有無に関係なく誰もが互いを認め合い、いきいきと生活できる共生社会の実現に向けて、パラスポーツを応援していくプロジェクトです。地上波レギュラーの番組では、アスリートやそれを支える人たちの前向きに挑戦する姿を毎週紹介。2016年のリオパラリンピックの際には、司会にマツコ・デラックスを起用し、パラスポーツの新たな魅力を引き出した特番を放送。また、パラリンピックメダリストたちに直接ふれあえるトークイベントを開催するなど、今後もパラスポーツの気運醸成のための様々な展開をしていきます。

PARA☆DO! ポータルサイトでは、アーカイブ・SNS・ライブ配信なども展開
<http://www.fujitv.co.jp/sports/parado/index.html>



Photo : Kenji Kinoshita

PICK UP

● 障害者スポーツのセミナーも継続的に開催

PARA☆DO! トーク&ライブ

パラリンピアンたちのトークショーやパラスポーツ体験企画、音楽ライブなどを開催しています。

- | | |
|------------|--------------|
| 第1回 高桑早生選手 | 第7回 別所キミエ選手 |
| 第2回 山田拓朗選手 | 第8回 廣瀬隆喜選手 |
| 第3回 池崎大輔選手 | 第9回 廣瀬悠選手 |
| 第4回 西崎哲男選手 | 順子選手 |
| 第5回 鈴木徹選手 | 第10回 安達阿記子選手 |
| 第6回 道下美里選手 | 第11回 木村敬一選手 |



● マツコ・デラックス司会で特番も放送！

『リオ2016パラリンピック開幕直前SP
～マツコが全力応援宣言！
みんな凄いやないのDX～』

[2016年9月2日 23:00～23:58 フジテレビ系列にて放送]



放送等を通じてパラスポーツを支援

BSフジ

『アキレアの橋～2020遙かなる東京へ～』

車椅子バスケットボール日本代表の挑戦

毎月放送しているスポーツヒューマンドキュメンタリー番組で、車椅子バスケットボールの“ドイツ・ブンデスリーガ”で活躍する日本代表選手の姿を伝えました。（#5 2016年8月26日 22:00～23:25放送）リオ・パラリンピックに出場した3人の選手（藤本怜央、香西宏昭、千脇貢）と及川晋平ヘッドコーチの挑戦に長期密着、世界の壁に立ち向かう姿をリアルに描きました。

[毎月1回
日曜 19:00～
BSフジにて放送]



ニッポン放送

『ニッポンチャレンジドアスリート』



障害者スポーツの魅力を伝え、応援・啓蒙するラジオ番組『ニッポンチャレンジドアスリート』を2015年4月から継続しています。障害を持ちながら国際舞台をめざしているアスリートたち、サポートする人たちの素顔を取材・紹介。イベントでのブース展示、試合観戦などの派生展開も実施し、パラスポーツを応援しています。

[毎週月曜～金曜 13:42～13:47 ニッポン放送にて放送]

『鈴木亮平Going Up』

『鈴木亮平Going Up』では、俳優・鈴木亮平が、車椅子バスケットボールを中心に、様々な障害者スポーツの世界と触れあい、感じたことを語っています。番組を通じて障害者スポーツを支援しています。

[毎週土曜 22:00～22:30 ニッポン放送にて放送]

三菱電機presents
鈴木亮平

Going Up

フジテレビ / FCC

新春特番『君に捧げるエンブレム』

リオ・パラリンピックやBリーグ開催と、車椅子バスケットボールやバスケットボールそのものに注目が集まる中、2017年新春大型ドラマとして車椅子バスケットをテーマにしたドラマを放送。日本代表選手として世界を目指した実在の元Jリーガーをモデルに描いた作品で、逆境に立ち向かう男とその夫を支え続けた妻、彼らを取り巻く仲間やライバルたちとの絆、愛する家族との葛藤などを描き、パラスポーツを取り巻く現実を放送しました。

[2017年1月3日 21:00～23:30 フジテレビにて放送]

CLOSE UP !

産経新聞社主催「ふくのわプロジェクト」に協力

11月29日「いいふく」の日に、フジテレビ1階シアターモールで衣類回収イベント「ふくのわプロジェクト」（産経新聞社主催）を開催しました。このプロジェクトは、着なくなった衣類を専門業者に買い取ってもらい、その収益金を日本財団パラリンピックサポートセンターに寄付することでパラスポーツの発展に活用するというもので、社員や近隣企業の方、地域住民の方々が古着を持ち寄ってくれました。フジ・メディア・ホールディングス各社も協力し計**864.1Kg**の衣類を回収できました。



地域活性化とダイバーシティ社会の実現をめざして

「グリッター8×アウェアネスカラー企画」

フジテレビ / フジ・メディア・テクノロジー

フジテレビ社屋イルミネーション「グリッター8」を活用し社会課題への支援の意志を発信しています。多様性を認める社会をめざして"知ってもらう"機会を提供し、問題解決につなげる目的で2015年4月からスタート。2年目となる2016年度はパレットタウン大観覧車や自由の女神も参加して、お台場エリア全体に広がっています。



10月1日 乳がんの予防啓発（ピンクリボン）

ピンクにライトアップされた自由の女神

乃村工芸社本社ビル

パレットタウン大観覧車

東京ビッグサイト

● 2016年度に実施したライトアップ一覧

4月2日	世界自閉症啓発デー（ブルー）	11月12日	世界中の女性に対する暴力の根絶（パープルリボン）
9月21日	国際平和デー 世界平和を考える（白）	12月1日	世界エイズデー（レッドリボン）
10月1日	乳がんの予防啓発（ピンクリボン）	1月20日	障害者権利条約が日本で発行された日（イエローリボン）
10月16日	臓器移植への理解促進（グリーンリボン）	3月5日	国際女性デーにちなみ妊産婦の健康を願う（ホワイトリボン）
11月1日	児童虐待防止（オレンジリボン）		

東京ゲートブリッジ、東京ビッグサイト、パレットタウン大観覧車、自由の女神、レインボーブリッジのほか、近隣企業の乃村工芸社などがこの「グリッター8×アウェアネスカラー」の企画に賛同してくれ、可能な限り一緒にライトアップしてくれました。

「自由の女神」がピンクリボン運動と連動しピンクに照らされたのは初めてのことで、これにはフジ・メディア・テクノロジーが照明機材を設置して、ライトアップを実現させました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて国際都市「ODAIBA」をアピールするため、臨海副都心エリアの活性化につなげていければと考えています。

● 仙台スカイキャンドルもライトアップ

フジテレビ系列仙台放送の大年寺山送信所鉄塔「仙台スカイキャンドル」でもアウェアネスカラーのライトアップを実施しています。

〔2012年6月～継続〕

2016年度実績

4月2日～4日	「自閉症啓発」ブルー
11月9日～14日	「世界糖尿病デー」ブルー
3月7日	「緑内障啓発」グリーン
3月26日	「てんかん啓発」パープル



コンテンツにおけるバリアフリー

制作したコンテンツをあらゆる人に楽しんでもらうために

フジテレビ / 共同テレビ / フジミック

放送におけるバリアフリー

● 字幕放送

フジテレビでは、7時から24時のほぼすべての収録（生放送以外）番組に字幕を付与しています。生放送番組については、ニュース、情報番組を中心に [生字幕=ほぼリアルタイムで字幕をつけること]の付与を進めています。フジテレビ、FNS系列局、BS/CS局で放送されるドラマ、バラエティ、アニメをはじめ、ニュースやスポーツなどの生放送における字幕の制作・送出をフジミックが行っています。



字幕放送

● 解説放送

解説放送は目の不自由な方々にテレビを楽しんで頂くために副音声を使って画面の解説を行うものです。セリフだけでは伝えきれない場面設定や出演者の動きなどをナレーターが簡潔に説明しています。金曜や土曜の単発ドラマや邦画、『ワンピース』『はやく起きた朝は…』『ちびまる子ちゃん』『サザエさん』『MUSIC FAIR』などの番組に解説放送を継続的に付与しており、制作は**共同テレビ**が行っています。今後もより多くの番組に解説放送を付与できるよう促進に努めて参ります。

● 手話放送

『テレビ寺子屋』にて手話放送を行っています。
[毎週日曜5:10~5:40 フジテレビにて放送]

● 字幕データ放送

どの地域でも字幕放送を視聴できるよう、番組素材に字幕放送データを付与して各系列局に供給。番組素材をデータファイル化して字幕を同梱し、各局の放送時間にオンラインで配信しています。

● CM字幕放送対応

字幕付きCMのトライアル期間が終了し、次の段階に移行すべく複数社が提供する番組での放送に向けて作業を進めています。

● DVDにおける字幕

ドラマをDVD化する際には、制作時に聴覚障害者向けに字幕を付けています。

映画におけるバリアフリー

フジテレビは、2016年度に公開したすべての映画に日本語字幕を付けました。製作している映画には、聴覚障害者のお客様にもご鑑賞頂けるよう日本語字幕を付けて上映し、後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕を付けています。また、視覚障害者のお客様にも映画をお楽しみ頂けるよう**「音声ガイド」**を付けたバリアフリー上映も増えており2016年度は7作品に付与しました。

● 音声ガイドとは？

映画の視覚的な情報を補うナレーションです。視覚障害者は、映画の音や台詞を聴き、映像を想像しながら楽しめます。その想像をより豊かにするのが**「音声ガイド」**の役割です。



『海よりもまだ深く』

©2016 フジテレビ
バンダイビジュアル AOI Pro.ギャガ



『四月は君の嘘』

©2016 フジテレビジョン
講談社 東宝
©新川直司/講談社

各社の強みを活かした社会貢献活動

ディノス・セシール

コースマーケティングによる社会貢献

ディノス・セシールではお客様とともに実施する活動として、通販カタログやオンラインショップでのコース・リレーテッド・マーケティングに取り組んでいます。

「DAMA Collection」では、2010年より顧客の購入一件につき途上国での学校給食1人一日分を支援する取り組みを

継続しているほか、国連WFP協会や世界の子どもにワクチンを送る活動団体などを支援しています。

2017年3月には年間100万円超の支援に対し国連WFP協会より感謝状が授与されました。



「DAMA Collection」



美容健康アイテムカタログ

「d-BEAUTY PREMIUM METHOD」を通じた支援に対して国連UNHCR協会より感謝状が授与されました。[2017年3月]

※コース・リレーテッド・マーケティングとは、慈善事業協賛型マーケティングと訳され、お客様とともに取り組むチャリティのこと。寄付つき商品・サービスとも呼ばれます。

● ピンクリボンチャリティキャンペーンを開始

乳がんの早期発見・治療を推進する「ピンクリボン運動」に賛同し、2016年9月より「セシレーヌ」掲載のブラジャー1点購入につき1円を、日本対がん協会「乳がんをなくすほほえみ基金」へ寄付する年間キャンペーンを開始。啓発や患者支援等に役立てられます。

フジパシフィックミュージック

「HANDSIGN」

手話をもっと身近に感じてもらうために ボーカル&手話パフォーマンスグループ

手話を交えた独自の表現方法でメッセージを届け、音楽とパフォーマンスで全ての人達が楽しめるライブ空間を追求し続けている「HANDSIGN」の活動が10周年を迎え、4月

の記念ライブではタイトルを「絆 -KIZUNA-」として、全曲・MCに字幕を入れたDVDの制作・販売も行いました。



サンケイリビング新聞社

使用済み切手回収で途上国支援

オフィスで働く女性のための情報紙「シティリビング」の全国ネットワークで読者へ呼びかけ、オフィスで不用になった国内外の使用済み切手を回収しました。財団法人ジョイセフに寄付し、途上国での国際協力活動支援資金として役立ちます。また仕分け作業は読者ボランティアが行っています。

第35回 (2016年2月下旬~8月中旬)

回収金額：41万9,485円

第36回 (2016年8月下旬~2017年2月下旬)

回収金額：44万4,111円



「シティOL-AID」

扶桑社

羽生結弦著書 売り上げの一部を寄付

フィギュアスケートの羽生結弦選手の著書「蒼い炎II-飛翔編-」の売り上げの一部を、同選手の地元宮城県内のスケート場・アイスリンク仙台に寄付。また、同県の中学・高等学校計309校に前巻「蒼い炎」と2冊セットにして教育委員会を通して寄贈しました。

クオラス

ケニアへの母子支援活動をサポート

妊産婦と5歳未満の子どもの死亡率が高いアフリカ・ケニアに対し製薬企業が実施している母子支援活動に協力しています。記者発表の運営企画やPR展開、Web動画制作等で認知拡大に貢献しました。



フジパシフィックミュージック

AAA(Act Against AIDS)に協力

エイズ啓発運動、エイズ問題の提起等、エイズをとともに考える同事務局運営に協力。毎年寄付を行い、意識啓蒙に貢献しています。

LIVE FOR LIFE美奈子基金 に協力

白血病をはじめとする難病患者及びその家族支援を目的に設立された同基金の運営に協力しています。毎年本田美奈子メモリアルコンサート「音楽彩」への寄付を行っています。

すこやかな暮らしを応援

フジテレビ / NEXTEP

『その原因、Xにあり!』

誰もが気になっている身体の悩みを取り上げ、専門家とともに“その原因”を解明し、どうすれば解決できるかを究明していく番組を放送。身近なネタをテーマに、その原因は意外なところにあった! という驚きの事実を導き出したり、食事法や睡眠法といった生活習慣の提案で改善できる方法を追究していきます。



[2016年10月～毎週金曜19:00～19:57 フジテレビにて放送]

FCG総合研究所

がん患者の日常整容のガイドライン作成

国立がん研究センターアピアランス支援センターと共同で、がん患者が治療中に困っている洗顔や洗髪等の日常整容について、専門的知見から医療関係者向けのガイドラインを作成し、7月に「がん患者に対するアピアランスケアの手引書2016年版」として発行しました。

食品の正しい理解をサイトで公開

食品を正しく理解してもらうために、食品添加物と残留農薬の成分名や使用目的、許容量、基準値などの最新情報を確認できるサイトを無料公開。法律更新に合わせ情報は絶えずアップデートしています。

「食品添加物を調べてみよう」

<http://www.fcg-r.co.jp/additive/customer.html>

「残留農薬を調べてみよう」

<http://www.fcg-r.co.jp/pesticide/index.htm>

サンケイリビング新聞社

「日本健康マスター検定」

サンケイリビング新聞社などが後援する「日本健康マスター検定」が10月よりスタート。自分や家族の健康を守り、生活や仕事に活かせる「健康リテラシー」を習得するために新しく生まれた検定。日本医師会が監修協力しています。第1回の検定試験は2017年2月26日に

全国11ヶ所で実施されました。

(受験者4,000名)

公式HP <https://kenken.or.jp/>



フジパシフィックミュージック

高齢者向け「リハビリ体操」制作

体と脳のトレーニングをして日常使っている筋力を保ちながら楽しく健康な生活を送るための介護予防体操「リハビリ体操」をレクチャーするCD+DVD2枚組を制作しました。企画・監修はその世界の第一人者である川名千鶴子氏。

全国の介護施設や高齢者に向け2017年3月より販売を開始しました。



その他の取り組み

クオラス

セラピードッグの啓蒙と普及

殺処分の対象となった捨て犬や震災での被災犬をセラピードッグとして育成し、社会福祉への貢献と「殺処分ゼロ」の実現をめざす国際セラピードッグ協会の活動に賛同し、セラピードッグの啓蒙と普及活動を応援しています。



ポニーキャニオン

第8回港区文化芸術フェスティバル SOUL CAMP歌声を紡ぐクワイヤー

港区が進める文化芸術振興のイベントで、ポニーキャニオンは第7回から音楽制作やライブ制作等を運営。8回目となる今回は、ゴスペルを軸にプロミュージシャンと約200人の区民が週末にプロの指導のもとにテクニックを磨き、サントリーホールで成果を披露しました。

エンターテインメントの素晴らしさを再確認し、区の芸術振興のお手伝いできました。

[2017年1月22日実施]



世界の貧困解決にむけて

フジ・メディア・ホールディングス各社で支援



FNSチャリティキャンペーン

FNSチャリティキャンペーンは、“世界の子どもたちの笑顔のために”をメインテーマに実施しているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社及びBSフジが放送やイベントを通じて募金活動を行い、日本ユニセフ協会を通じて国際貢献を行ってきました。40年以上に及ぶ活動の募金総額は約42億円に達しており、アジア・アフリカなど世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。



● 2016年度の支援国 トーゴ共和国

第43回となる2016年度はアフリカ大陸西部ギニア湾岸に位置するトーゴ共和国を支援しました。トーゴは、人口730万人、その42%を15歳以下の子どもが占める若い国で、人懐っこい国民性から「アフリカの笑顔」とも呼ばれています。しかし一方で、世界の最貧国の一つに挙げられており、安全な水を使えない、あるいは予防接種を受けられない等の理由で1年で2万人以上の5歳未満児が死亡しています。

こうした過酷な状況下の子どもたちを支援するため『とくダネ!』の山中章子アナウンサーと取材班は2週間にわたり現地を取材、6月14日と16日『とくダネ!』内で放送し協力を呼びかけました。また全国のフジテレビ系列局とともに様々な募金活動も行いました。



TOTAL

4,551万198円

集まった募金は、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どものための支援ために活用されます。

PICK UP

● 番組・ネットニュースによる募金活動

- 『とくダネ!』内で山中章子アナウンサーにより実情報告
- 『赤土の大地で生きぬく子どもたち～トーゴ共和国～』
フジテレビ系列地上波とCS・フジテレビTWO/NEXT及び、BSフジで放送
- 『ホウドウキョク×GOGO』
山中章子アナ出演のもと、トーゴの取材映像を流し、支援を募りました。

● フジテレビ製作の映画収益からの寄付

映画『ONE PIECE FILM GOLD』の収益から総額**600万円**を寄付しました。

● 各種イベントにおける募金活動

- 山中章子アナによる現地取材報告講演会
- 「ふるさと祭り東京2017」会場 全国の地酒ブース
- 「お台場みんなの夢大陸2016」でのフリーマーケット
- 「トーテム」会場内「くるくる募金箱」
- 社内交流&チャリティイベント「ちよい呑み」を夏に開催
(経費を除く)収益全額**42万6,391円**を寄付
- その他系列各局のイベント



フジサンケイグループとしての取り組み

第28回高松宮殿下記念世界文化賞

「高松宮殿下記念世界文化賞」は、公益財団法人 日本美術協会（総裁 常陸宮殿下）により1988年に創設された、全世界の芸術家を対象にした顕彰制度です。長きにわたり総裁を務められた故高松宮殿下の「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」とのご遺志にもとづいて、協会創立100周年を記念して創設されました。



2016年10月18日 明治記念館で行われた式典の様様

文化芸術の振興こそが人類の平和と繁栄に資するとして、国境や民族の壁を超えて、芸術の発展、普及、向上に顕著な貢献をした個人、団体を顕彰しています。賞は絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門、各部門年間1名を原則とし、受賞者には金メダルと賞金が授与されます。また、次世代を担う若手芸術家の活動、行動計画を援助し奨励することを目的に1997年「若手芸術家奨励制度」が創設され、若手芸術家を育成援助している団体、または若手芸術家の団体・個人を対象に奨励金を授与しています。

詳しい内容につきましては世界文化賞公式HPをご覧ください。
<http://www.praemiumimperiale.org/ja/>

高松宮殿下記念世界文化賞
PRAEMIUM IMPERIALE
IN HONOR OF PRINCE TAKAMATSU

2016年10月18日に28回目の授賞式が行われ、絵画部門のシンディ・シャーマンさん、演劇・映像部門のマーティン・スコセッシさんらが受賞しました。また若手芸術家奨励制度には、マレーシアのファイブ・アーツ・センターが選ばれました。これまでの受賞者数は27ヶ国、144人に及び、国境や人種の壁を越えて地球規模になっています。フジ・メディア・ホールディングス各社は同賞の趣旨に賛同し、賞の創設以来サポートしています。



● 第28回受賞者 [2016年]

絵画部門 シンディ・シャーマン (アメリカ)
彫刻部門 アネット・メサジェ (フランス)
建築部門 パウロ・メンデス・ダ・ホッシャ (ブラジル)
音楽部門 ギドン・クレーメル (ラトビア/ドイツ)
演劇・映像部門 マーティン・スコセッシ (アメリカ)

フジテレビ / BSフジ / 共同テレビ

『高松宮殿下記念世界文化賞特番』を制作・放送

フジテレビ 2016年10月27日 24:25~24:55 放送 制作 フジテレビ
BSフジ 2016年10月30日 13:30~14:00 放送 共同テレビ

美術館支援

フジサンケイグループの公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団が運営する「彫刻の森美術館」「美ヶ高原美術館」、また公益財団法人 日本美術協会が運営する「上野の森美術館」に対し、グループ各社と連動し、わが国の芸術文化活動の普及に寄与すべく開館時より様々な支援を行っています。彫刻の森芸術文化財団は美術館運営の他、文化面での国際支援として、若手音楽家の登龍門ともいえるロン・ティボー国際コンクールを主催している「ジャック・ティボー財団」の支援等も実施しています。

フジサンケイグループとしての取り組み

赤ひげ大賞

地域で献身的な医療活動に取り組む医師を顕彰する「日本医師会 赤ひげ大賞」（主催・日本医師会、産経新聞社）は2012年に創設され、2017年2月10日に皇太子殿下ご臨席のもと第5回表彰式が行われました。フジテレビ・BSフジでは、この顕彰制度の趣旨に賛同し、後援するとともにニュース等で報道、また特別番組を編成し有意義なこの活動をサポートしています。



■ 第5回受賞者

- ・ 秋田県の下田輝一氏（山内診療所 院長）
- ・ 茨城県の大森英俊氏（大森医院 院長）
- ・ 神奈川県の明石恒浩氏
（ザ・ブラフ・メディカル&デンタル・クリニック 院長）
- ・ 京都府の大森浩二氏（大森医院 院長）
- ・ 鹿児島県の瀬戸上健二郎氏
（薩摩川内市下飯手打診療所 前所長）

● BSフジで『密着！かかりつけ医たちの奮闘～第5回赤ひげ大賞受賞者～』放送

無医村や離島などのへき地での診療、さらに、都会の中で、独居老人・認知症患者・外国人などの支援など、番組では各医師が行っている献身的な医療活動を紹介し、日常の奮闘ぶりをお伝えしました。

[2017年3月5日 14:00～14:55 BSフジにて放送]
制作 共同テレビ



BSフジ / 共同テレビ

フジサンケイグループ広告大賞

「フジサンケイグループ広告大賞」は、日本の広告文化の向上と広告界の発展に寄与すべく、1971年にフジテレビを中心として創設されました。フジサンケイグループ広告大賞グランプリを含む「メディアミックス部門」、各媒体別に作品を審査する「メディア部門」「クリエイティブ部門」「パブリック部門」、話題性の高い広告や社会に貢献した企業キャンペーンなどを表彰する「特別部門」、各媒体を効果的に活用し、話題性の高かったイベントを表彰する「イベント部門」があります。

賞の運営はグループの媒体各社が中心となり、2016年4月12日に第45回贈賞式が実施されました。



音楽関連支援

フジサンケイグループは音楽を通じて豊かな日本社会の実現に寄与すべく、グループゆかりの「公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団」に対しグループで支援を続けています。

災害復興支援

Support for Reconstruction of
the Disaster-affected Areas

被災地をみんなで応援

ディノス・セシール / フジ・メディア・ホールディングス各社

「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」

福島・国道6号線沿いに桜の苗210本を植樹
これまでの合計は867本に！



2017年1月21日には、各社からの有志14人で桜の苗の植樹を行いました。



地震や津波、さらに放射能被害を受けた福島県で、30年後に子どもたちが誇れる桜並木を〝との思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」。フジ・メディア・ホールディングス各社はディノス・セシールを事務局として2013年度から協賛しています。2016年度はディノス・セシールの顧客や、フジ・メディア・ホールディングス各社などから合わせて桜210本分の寄付をし、これまでの植樹本数は867本になりました。今後もこの活動を継続し、地元の方々に桜の成長を楽しんで頂きながら、20年後、30年後にこの場所が桜の名所になるよう支援を続けていきたいと考えています。



2017年4月の桜の様子

テレビ美術の力で 被災地の子どもたちに笑顔を

フジテレビ / フジアール (八美会)

「こども笑顔プロジェクト」



バカ殿に変身！

廃材を利用して輪ゴム鉄砲を作るコーナー

フジテレビ美術制作局と美術関連協力会社からなる「八美会」で2013年から行っている復興支援活動です。これまでに岩手、宮城、福島などで6回実施。

テレビ美術の裏側を紹介したり、「のこぎり体験」や人気キャラクターに扮して写真撮影をしたりと、テレビ局ならではの活動で被災地に笑顔を届けています。2017年度は4月22日に町民の95%が居住していた地域が「帰宅困難区域」となり、避難先の会津若松市に仮設校舎のある大熊町立大熊中学校で開催しました。

● 活動実績 (2017年4月現在)

- 2013年 岩手県大船渡市
- 2014年 宮城県名取市
岩手県宮古市
- 2015年 伊豆大島
- 2016年 福島県南相馬市
- 2017年 福島県会津若松市(大熊町)



オリジナルの復興支援活動を継続

フジテレビずっとおうえん。プロジェクト

フジテレビ

ニーズに合ったイベントなどを開催

フジテレビでは、被災地を「ずっと」忘れないという思いで、2011年の東日本大震災発生後から被災地復興支援活動を継続して行っています。当初は「こどもおうえんプロジェクト」として、物資を直接被災地に届けたり、子どもたちを対象にした食育や朗読イベントなどを実施。2012年からは、大人にも支援対象を広げた「ずっとおうえん。プロジェクト」を始動。エンターテインメント企業ならではの「支援力」で、“新たなコミュニティづくり”のお手伝いをしています。



9月 台風10号による水害に見舞われた岩手県岩泉町



みんなでハイタッチ！



岩手県岩泉町 いわいずみこども園



佐々木恭子アナウンサーの講義



福島県立遠野高等学校1年生



岩手県花巻市 花巻幼稚園

2016年度は16ヶ所 約1,740人を対象に実施

● 2016年度活動実績

- 5月2日 熊本県阿蘇郡西原村・嘉島町 避難所2ヶ所にテレビ・DVD設置
- 5月30日 熊本県 益城中学校・木山中学校・嘉島中学校 バレーボールグッズをバボちゃんとお届け
- 6月12日 熊本県嘉島町避難所 『アイアンシェフ』炊き出し& 『サザエさん』グリーティング
- 6月29日 福島県広野町 ふたば未来学園高等学校 アナウンサーによる「あなせん」特別編を実施
- 7月14日 福島県立 遠野高等学校 アナウンサーによる「あなせん」特別編を実施
- 8月18日 熊本県御船町カルチャーセンター サザエさん上映会・グリーティング
- 8月19日 熊本県西原村村民体育館柔道場 サザエさん上映会・グリーティング
- 10月17日 岩手県花巻市 花巻幼稚園/南城保育園で食育出前授業「ハロー！どっこくん」を開催
- 11月10日 熊本県 わかみや保育園/嘉島幼稚園で食育出前授業「ハロー！どっこくん」を開催
- 12月8日 岩手県岩泉町
こがわこども園/いわいずみこども園 ラフクんとミットくんのクリスマス会
- 1月28・29日 熊本県 子育てすくすくこども博 食育出前授業「ハロー！どっこくん」を開催
- 3月19日 熊本県御船町カルチャーセンター サザエさん上映会・グリーティング
- 3月20日 熊本県熊本市立城東小学校体育館 サザエさん上映会・グリーティング

TOTAL 2011年～これまでの活動実績

179ヶ所を訪れ、約18,620人を対象に実施



西山喜久恵アナウンサーの講義
ふたば未来学園にて



熊本県八代市 わかみや保育園



熊本県御船町 恐竜博物館前で

災害を伝える取り組みが高く評価

フジテレビ

『わすれない～6年目の選択～』を放送

過去16回にわたり大震災の津波検証と被災者の記録を放送してきたドキュメンタリー「わすれない」シリーズ。17作品目は、ある選択の時を迎えた2人、津波から奇跡的に生還した少年と原発事故で避難生活を余儀なくされた少女を取材。この2人が成長していく姿を通じ、改めて大震災からの6年と復興の意味を考えました。

[2017年3月4日 14:00～15:00 フジテレビにて放送]

- ◆ 2016年放送の『ザ・ノンフィクション わ・す・れ・な・い明日に向かって～運命の少年』が「ニューヨーク・フェスティバル」で銀賞を受賞しました。



FNN報道特別番組『日本を襲う巨大地震 忘れていないか3・11』



阪神・中越・東日本・熊本から大地震を経験した人々たちをスタジオに集め「巨大地震」とは何だったのか？そして、被災者だからこそ知る被災と復興とは何なのかを語ってもらいました。首都圏もパニックに陥った3月11日。もしも今、

巨大地震が来てライフラインが止まったら？ある家族をモニタリングして専門家と検証。改めて大震災から学び、考え、備えるための特別番組を放送しました。

[2017年3月11日 14:00～15:30 フジテレビにて放送]

CLOSE UP !

自然の脅威を伝える映像が2016年度 新聞協会賞を受賞

フジテレビ報道ヘリチームは2015年9月、鬼怒川の堤防が決壊し茨城県常総市に甚大な被害をもたらしている状況を撮影。上空から濁流にのみ込まれる街や家族をカメラで捉えました。この映像が2016年度の「新聞協会賞」写真・映像部門を受賞しました。

受賞理由：記者の安全や救助活動に十分配慮し、被害状況をテレビの特性を活かしてリアルタイムで伝え、報道機関の使命を果たした（日本新聞協会）



ニッポン放送

『子どもたちの震災～しゃべっていいんだ』

東日本大震災を風化させないため、ニッポン放送は、震災直後から被災地に何度も足を運び報道を続けてきました。震災から5年。当時の小学生が高校生となり、二度と悲劇を繰り返さないために自らの体験を「語り継ぐこと」が大切だと気づき、震災に真剣に向き合おうとしている姿を描いた報道ドキュメンタリーを制作・放送しました。[2016年5月30日 放送]

- ◆ 第12回 日本放送文化大賞ラジオ・グランプリを受賞



BSフジ

『東北魂TV復興応援スペシャルLIVE 2016 in 福島』



“笑いで東北を、日本を元気に！”をテーマに、サンドウィッチマン、マギー審司ら東北出身のお笑い芸人によるバラエティ番組『東北魂TV』（毎週日曜23:00～23:30放送）を、2011年より復興支援として継続しています。2016年は福島でお笑いライブを実施し、漫才やコントで被災地に笑顔を届けました。[2016年5月1日 14:00～15:55 BSフジにて放送]

『甦れ！東北の鉄道2017 東日本大震災から6年』

BSフジでは、震災の直後から被災地の鉄道をつぶさに取材し、毎年『甦れ！東北の鉄道』として放送を続けています。2017年は、シリーズ6回目を放送。6年間の取材を通して見えたことは、鉄道が単に輸送手段ではなく、被災地沿線の人々にとって「安心」を与える存在であったこと。番組では鉄道の復旧を伝えながらも、多くの被災者が悲しみを背負いながら、明日へと歩む姿も描きました。

[2016年3月12日 17:00～18:55 BSフジにて放送]

- ◆ 2016年3月12日に放送した『東日本大震災から5年 甦れ！東北の鉄道 1750日の記録』が第12回日本放送文化大賞のグランプリ候補番組に選出されました。



その他の取り組み

ディノス・セシール

「東北に春をお届けします。」

お客様とともに取り組む復興支援活動として2011年よりスタートしたプロジェクト。2016年度は通販カタログ3誌（ディノスウィズ・カーラ・ルール各2016冬号）で12月までのお買いものにつき1回10円をこの活動に充てさせて頂き、**92万5,470円**を東北の子どもたちの学びと自立の機会を提供する「ハタチ基金」に寄付、桜の苗木210本を福島に桜の名所をつくることで子どもたちの未来を後押しする「福島浜街道桜プロジェクト」に寄贈しました。

サンケイリビング新聞社

「支えたいプロジェクト」

2011年の東日本大震災の被災者の生活支援を目的に始まった募金活動。イベント会場等での通常の募金活動(募金箱)の他に、ホテルのランチを食べることで支援になる「ホテルdeチャリティ企画」を紙面で告知し、売上の10%を募金しています。2014年度からは東日本大震災被災者だけでなく、自然災害全般に対象を広げ、「広島の大砂災害」、「台風18号等大雨災害の被害者支援」への募金もこの名称を使って活動しました。



<第8期 寄贈額> 合計**595万9,637円**

TOTAL

「支えたいプロジェクト」
1～8期累計 **2,917万9,397円** (2017年3月末現在)

あしなが育英会、東日本大震災ふくしま子ども寄付金、茨城県共同募金会、日本赤十字社に寄贈予定

フジミック

災害情報システムの提供

緊急の大規模災害に備え、セキュリティと安定性に優れたネットワーク網により、災害情報や気象情報をリアルタイムに提供できるクラウドサービスによる災害情報システムを構築しました。フジテレビやその他の放送局に加え、駅や商業施設など公共の場のデジタルサイネージにも情報を提供しています。[2014年4月1日～継続]

BSフジ

第3回 平原綾香 Jupiter基金 My Best Friends Concert ～顔晴れ！こどもたち～

歌手・平原綾香さんが、音楽活動を通じて様々な支援をするため2015年に設立した「平原綾香 Jupiter 基金」。年1回コンサートを開催し、集まった募金は「ひとつの場所ではなく、そのとき困っている人に」と、年ごとに寄付先を変更しています。2016年度は2017年1月19日に東京国際フォーラムにて開催。募金は全額「東日本大震災被災児の自立支援」「復興のリーダーづくり」を目的に発足したSupport Our Kids(サポートアワーキッズ)プロジェクトに寄付。BSフジは当企画をサポートしています。



フジテレビ / ニッポン放送 / サンケイビル

帰宅困難者受け入れ対応



フジテレビシアターモールでの受け入れ訓練

フジテレビ・ニッポン放送・サンケイビルでは、大震災発生時に社会的責任として帰宅が困難になった方々を受け入れる体制を整えています。

サンケイビル

解体前の建物を共同防災訓練の場として提供

ギンザTS・サンケイビル（所在地：中央区銀座六丁目）の建替えに伴い、解体工事に入る前のビルで、所轄の消防署と共同して防災訓練を実施しました。関係者、現場経験の少ない消防隊員を中心に、地域の消防団の方にもご参加頂き、地域の消防活動のために貢献。訓練後には、本訓練の功績が評価され、京橋消防署長から感謝状を頂きました。

[2017年1月23日・24日]

次世代育成支援

Support for the Next Generation

次世代のクリエイター発掘と育成

若い世代の放送文化への興味と理解を広げ、次世代のクリエイターを育てる取り組みを行っています。

第28回ヤングシナリオ大賞

ヤングシナリオ大賞は、次世代のシナリオライターを発掘・育成することを目的として1987年に設立されました。第28回は1,602編の応募があり、数次にわたる選考を経て11月30日に大賞1名・佳作3名を発表。大賞を受賞した小島聡一郎さんの作品「ぼくのセンセイ」が映像化され、12月25日にドラマ『俺のセンセイ』として地上波（関東ローカル）で放送されました。この賞をきっかけに多くの作家が世に出ています。

ドラマ制作の裾野を広げる一助となる本活動を今後も続けていきます。



第3回ドラマ甲子園

高校生のための演出家発掘プロジェクト。

大賞作品は、執筆した高校生本人の演出で、テレビドラマ化されるという夢のあるプロジェクトです。第3回ドラマ甲子園大賞受賞作品『変身』は、初の男子高校生監督の誕生となりました。また今回は監督の母校・筑波大学附属駒場高等学校で撮影が行われ「フジテレビTWOドラマ・アニメ」で放送されました。若い才能を応援し、次世代クリエイターの発掘と育成をめざして、これからも高校生たちを支援していきます。



初代大賞受賞者の青山ななみさんが、自身の成長と重ね合わせて書き下ろした『十九歳』（監督：フジテレビドラマ制作センター高野舞）が、CS放送だけでなく地上波でも放送されました。

フジテレビ

若いアスリートを応援

フジテレビ

『ミライ☆モンスター』

日本の未来を担う「金のタマゴ」たちが目標に向かって挑む姿を取材し、放送する夢追い人応援ドキュメンタリー。
[毎週日曜日11:15~11:45 フジテレビにて放送]



『スワローズキッズアカデミー』

憧れのプロ野球選手になることを夢見る少年たちを放送を通じてサポートしました。東京ヤクルトスワローズの選手たちが講師役を務め、野球技術のワンポイントレッスンやトレーニング方法、さらには食生活も指導するなど、野球少年たちの健やかな成長に貢献しました。[毎週日曜5:40~5:45 フジテレビにて放送]



フジテレビ / FCC

『ライオンのグータッチ』

一生懸命打ち込んでいるのに結果が出せない子どもたちのもとを“その道のエキスパート”である有名アスリートや著名人が訪れ、徹底的にサポート！夢を追いかける全ての子どもたちの成長を見守る応援ドキュメントバラエティです。
[毎週土曜日9:55~10:25フジテレビにて放送]



フジテレビ / NEXTEP

『Vメシ! JAPAN』

毎週1人の日本を代表するジュニアやトップアスリートを取材し、世界で戦うために努力する彼らのひたむきな姿を紹介。それとともに彼らが、ここぞという時に食べる“勝利の食事”にスポットをあてた番組です。

[毎週日曜 11:45~11:50 フジテレビ系列・BSフジにて放送]
※2017年3月終了



各社の強みを活かした出前授業・職業体験プログラムを実施

各社それぞれの持つ強みを活かして多様な出前授業や職業体験プログラムを行っています。

フジテレビ

“伝えるプロ”によるコミュニケーションの授業を11年間継続

アナウンサーによる出前授業「あなせん」プロジェクト



西山喜久恵アナウンサー 江東区立第七砂町小学校にて

「あなせん」（＝アナウンサー先生）は、2005年にアナウンサーが主体となってスタートした出前授業です。子どもたちのコミュニケーション能力の向上のお手伝いをしたいという思いから企画され、ここ数年はキャリア教育の要素も盛り込み、ニーズに即して発展させてきました。

- 対象：小学校3年生～6年生
- 講座内容：[スピーチ][インタビュー][音読]
- 実施エリア：フジテレビの放送圏内（関東1都6県）

あなせん



大事なのは、Face to Faceのコミュニケーション
「伝え合う力」は「生きる力」につながると信じて活動を継続

被災地での実施やイベント・他団体とのコラボ、技術スタッフによる「あなせん」も！



被災地支援：福島県立遠野高校でも実施



木管五重奏と朗読のコラボレーション
「くるみ割り人形」港区芝小学校



カメラ、音声機材等に触れる授業
千葉県美浜区の真砂西小学校

TOTAL

これまでの実績（2005年～2017年3月末）

193回 約 **13,970人** を対象に実施

2016年度は**20回** 約 **2,270人** を対象に実施

【あなせん公式サイト】 <http://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>



夏のイベント
「みんなの夢大陸」にて公開「あなせん」

グランピスタ ホテル&リゾート

1日ホテルスタッフ体験！

「君もホテリエ&パティシエ」

2016年で開校10年目となる『君もホテリエ&パティシエ』は、ホテルの現役スタッフが「ホテルマナー」と「パティシエの技」を子どもたちにお伝えするスペシャルスクールです。



授業は、「ホテリエ講習」「チェックイン実習」「パティシエ講習」で構成されており、「ホテリエの仕事」を体験できる楽しい1日となり、ご両親にとっても子どもが成長する姿を実感できる体験です。講習終了後には、「修了書授与式」と「記念撮影」を行います。

自然への理解・命の大切さを教える

ウミガメ移動教室

自然保護に関する教育普及活動の一環として、千葉県内の幼稚園・保育園・小学校・特別支援学校を対象に、アカウミガメの子ガメとともに飼育係員が各学校を訪問しています。鴨川シーワールドでのウミガメの保護活動を通して得られた情報や生態をわかりやすく解説するとともに、本物の子ガメを間近で観察することで、子どもたちに自然保護への理解や命の大切さについて知ってもらうことを目的としています。



バランスよい食事と運動の大切さを教える取り組みを全国展開

食育出前授業「ハロー！どっこくん」

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによる大型紙芝居の読み聞かせやうんちのキャラクター「どっこくん体操」などで構成された約40分の楽しいプログラムです。FCG総合研究所と協働し2010年にスタート、今では全国で開催しています。2016年度は鹿児島県、熊本県、岡山県、新潟県に初めて何うなど活動は全国に広がっています。



新潟市内 いぶき保育園

TOTAL

これまでの実績 (2010年～2017年3月末)

139ヶ所 **約15,410** 人を対象に実施

2016年度は**18**ヶ所で 約 **2,260**人の子どもたちに出会いました。



オリジナルHPも充実！

「どっこくん体操」や「快ウンおみくじ」がスマホ・タブレットからでも楽しめます。お申し込みもこちらからどうぞ！
「ハロー！どっこくん」ホームページ
<http://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/>

「美術館に行ってみよう」特別授業

「美術館に行ってみよう」特別授業を江東区立深川第二中学校で実施しました。海外の美術品のフォトエージェンシー業務を行っている「海外事業AMF」のスタッフが、江東区内の中学校で美術館の役割・美術館の楽しみ方を、地域貢献・文化芸術振興として特別授業を行いました。

■ 対象：中学1年生3クラスで
約 100人



修学旅行生の企業研修受け入れ

徳島県鳴門教育大学附属中学校より東京修学旅行時における企業研修の受け入れオファーがあり、研修を実施。質疑応答も含めて国際部社員が対応しました。研修成果は同学校のオープンスクールにて発表されました。今後も同様のオファーがあれば受け入れていく方針です。

[2016年10月20日実施]

インターンシップの受け入れ

フジテレビ・共同テレビ・NEXTEP・サンケイビル・扶桑社・クオラス・FCG総合研究所などでインターンシップの受け入れを行いました。

春休み子どもイベント「フジテレビで遊ぼう！」を初開催



子どもたちに本物に触れてもらおうと、社屋の一部を開放しテレビ局体験イベントを開催しました。技術機材を実際に操作したり、中継車に乗ったり、「あなせん」体験も！特に社内縄電車ツアーは大人気でした。[2017年3月30日]

児童養護施設の子もたちを支援

フジテレビ / ディノス・セシール

誰もが夢をかなえられる社会をめざして

児童養護施設で暮らす子どもたちのスピーチコンテストに向け フジテレビアナウンサーが直接指導

フジテレビは児童養護施設退所後、夢の実現のため進学をめざす子どもたちのためのスピーチコンテスト「カナエール」（企画・運営:NPO法人ブリッジフォースマイル）の活動を2012年からサポートしています。「カナエール」はスピーチコンテスト出場を通じて、子どもたちのコミュニケーション能力を向上させ、活動を支援する大人との交流の場を持たせる奨学金制度です。現役アナウンサーがスピーチコンテストに向け18歳、19歳の子どもたちにマンツーマンでスピーチ指導。発声・滑舌、言葉の選び方など5月下旬から指導をはじめ6月の横浜大会/東京大会までサポートしました。



スピーチ指導をする梅津弥英子アナ



コンテスト本番

ディノス・セシールは物品協賛という形で、子どもたちの自立をサポートしています。

フジ・メディア・ホールディングス各社

ブックフォースマイルを通じた寄付

不要になった書籍などを児童養護施設の子もたちの支援に充てる取り組み「ブックフォースマイル」に、FMH各社で協力しています。



2016年度は、10社から合計**4,520冊**が寄付され
181,072円が支援に充てられました。

2014年度～これまでの合計
13,2783冊
総額 **617,325円**

その他の活動

BSフジ

BSフジ×武蔵野大学寄附講座「未来型都市とメディア」



2016年、BSフジと有明にキャンパスを有する武蔵野大学が、相互発展と活力ある東京・臨海地区の地域づくりを目的として包括協定契約を交わしました。同年秋から、共同プロジェクトの第一弾として「寄附講座」を開催。番組制作、番組編成、営業、技術、経営などの幅広い経験を持つBSフジやフジテレビの現役社員とOBたちが講師を務め、約120人の武蔵野大学生が受講。約半年にわたる授業で、TV局の実務や未来のメディア環境と臨海地区、そしてこれからの時代を担う若者たちの将来について考えました。講座内容は、ダイジェスト版でも放送。[2016年9月21日～2017年1月25日]

ゴルフを通じて子どもの健全な育成をサポート

「世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会」

アメリカ・サンディエゴで開催される「世界ジュニアゴルフ選手権」の日本予選をサポートしています。優れた選手を海外へ派遣することにより、ジュニアゴルフツアー全体の強化を目指します。一般社団法人世界ジュニアゴルフ育成協会（IJGA）と連携しながら、ゴルフの活動を通じて子どもの健全な育成のサポート、及び生涯スポーツ社会の実現、国際交流を目的とした活動を推進しています。

■世界ジュニアゴルフ選手権：2016年7月12～15日



「世界ジュニアゴルフ選手権
日本代表選抜大会出身 畑岡奈紗

環境のために

For Environment

環境美化活動

フジ・メディア・ホールディングス各社

フジ・メディア・ホールディングス合同清掃活動



毎年3月・7月・10月にフジ・メディア・ホールディングス各社の有志が集まり、お台場エリアの清掃活動を行っています。この活動は2012年10月から始まり、これまでに13回実施。今ではすっかり定着し、参加者は毎回70人を超えています。ホールディングスの“結束力”を感じるとともに、日ごろあまり顔を合わせない人とのコミュニケーションの場もなっています。

《実施日》	《参加者数》	《回収したごみの量》
第11回 7月8日	20社 116人	70Lの袋 37個
第12回 10月10日	18社 88人	28個
第13回 3月10日	17社 76人	20個



省エネ・省資源にむけた取り組み 他

フジ・メディア・ホールディングス各社

省エネルギーの取り組み

フジ・メディア・ホールディングス
全社共通ポスターによる
クールビズ・ウォームビズの実施
毎年夏のクールビズと、冬のウォームビズの
ポスターを作成し、各社に掲示しています。



共通ポスター

その他、各社それぞれが節電、LED化、ペーパーレス、ゴミの分別、コピー紙、撮影テープ、乾電池等の再利用など、環境に配慮した取り組みを行っています。

一般開放のフリマを毎年開催

フジテレビ / フジ・メディア・テクノロジー

毎年、夏のイベント期間中の8月8日「フジテレビの日」に、本社屋にてチャリティ・フリーマーケットを開催しています。社員が持ち寄った品物を、社員・スタッフが総出で販売。フジ・メディア・テクノロジーも「乾電池つかみ取りコーナー」に乾電池を提供しました。2016年の売り上げ**123万2,568円**を全額FNSチャリティキャンペーン（13ページ参照）に寄付しました。



夏の大型イベントなどでも環境に配慮

フジテレビ / フジアール



2016年の夏のイベント「お台場みんなの夢大陸」（47日間で450万人が来場）では、環境にも配慮し、分別のため5種類の多言語ゴミ箱を設置したり、暑さ対策として霧状の水を振りまくミストマンにフジテレビ社員も参加するなど、様々な取り組みを行いました。さらに居酒屋えぐざいるPARKには、ホイールや木箱などの廃材が使われました。[2016年7月16日～8月31日]

自然環境に配慮した取り組み

ディノス・セシール

家具販売を通して、国産材の良さや意義を広くPR

国産木材利用

「ディノス」の通販事業において、2011年から国産材家具の販売を本格的に開始。カタログで国産材利用を広くPRするとともに、その取り扱い数を年々拡大。多くのお客様にお買ひ求め頂くことで国産材家具の普及に寄与しています。



「木のある暮らし」サイト

昭和30年代には90%を超えていた木材自給率は、価格の安い輸入材に押され平成11年には20%を切りました。その結果、海外の原生林の違法伐採、日本の森林の荒廃、林業の衰退等が社会問題化。国産材の利用を推進することは、これらの問題の解決につながります。

グランビスタ ホテル&リゾート

生物多様性の保全・再生

鴨川シーワールド希少生物保全活動

鴨川シーワールドでは千葉県などと連携し、国の天然記念物や国内希少野生動物種に指定されているミヤコタナゴなどの希少種の飼育下での保護増殖による系統保存に取り組んでいます。生物多様性の保全・再生のためには、行政だけでなく、企業や個人など多くの人々の協力が必要です。「生物多様性コーナー」では、ふだん見ることができない千葉県に生息する希少生物とその現状を、展示をとおしてご来園の皆様にご覧いただけるよう、生息地の保全や再生など地域の生物多様性の重要性を発信して参ります。



イベント等を通じた取り組み

クオラス

家族で楽しめるイベントで楽しいエコライフを提案

「ロハスフェスタin東京・光が丘公園」の企画・運営

「みんなが身近なことから楽しんで実践できるロハス・エコ」を提案する環境保護イベントを企画・運営しています。2016年度は春と秋の2回開催しました。環境省や東京都、練馬区なども後援し、来場者に環境に対する意識向上を図りました。これまでに東京で計8回開催。

[2016年4月16日～17日/9月17日～19日]



「打ち水」で都市部のクールダウンに貢献

サンケイビル

8月5日、都市部特有のヒートアイランド現象緩和に向け、東京サンケイビルで打ち水を行いました。



ニッポン放送

ニッポン放送は、2016年度も「大手町・丸の内・有楽町 打ち水プロジェクト」の趣旨に賛同し、後援しました。

フジサンケイグループとしての取り組み

地球環境大賞

地球温暖化防止や環境保全活動に取り組む企業・団体などを表彰

「地球環境大賞」は、フジサンケイグループが「産業の発展と地球環境との共生」を目指し、世界自然保護基金（WWF）ジャパンの特別協力を得て、1992年に創設した産業界を対象とする顕彰制度です。2016年4月18日には、第25回目の贈賞式が行われ、今日では日本を代表する環境顕彰制度として広く社会に定着しています。フジ・メディア・ホールディングス各社はこの「地球環境大賞」をサポートすることにより「環境」と「経済」そして「社会」との調和による豊かで活力あふれた国づくりの実現に役立ちたいと考えています。



第25回地球環境大賞の授賞式が、秋篠宮ご夫妻をお迎えして東京・港区元赤坂の明治記念館で行われました。

[2016年度受賞者]

● 第25回 地球環境大賞 東京急行電鉄株式会社

二子玉川ライズ 環境認証評価LEED「まちづくり部門」で世界初のゴールド認証を取得

経済産業大臣賞	YKK AP株式会社
環境大臣賞	株式会社 伊藤園・凸版印刷株式会社
文部科学大臣賞	特定非営利活動法人千葉大学環境ISO学生委員会
国土交通大臣賞	ヒューリック株式会社
農林水産大臣賞	アサヒグループホールディングス株式会社
日本経済団体連合会会長賞	ECM共同研究開発チーム（代表：株式会社 竹中工務店）
フジサンケイグループ賞	KDDI株式会社・東京大学・九州工業大学

詳しい内容につきましては地球環境大賞公式HPをご覧ください。

▶ <http://www.fbi-award.jp/eco/>

第25回 地球環境大賞 Since 1992

フジテレビ / BSフジ / 共同テレビ

● 特別番組

『立川志の輔のナットク! 地球環境大賞2016』を放送

受賞企業・団体の優れた取り組みをわかりやすく紹介しました。



フジテレビ

2016年6月18日 10:55~11:50放送

BSフジ

2016年6月26日 15:00~15:55放送



「水と緑と光の豊かな自然環境と調和した街づくり」をコンセプトに33年間にわたり大規模再開発を行った二子玉川ライズ。自然と共生しながら心豊かに暮らせる街の様子を番組を通じて紹介しました。

マネジメント体制

Management

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

第1章. 基本方針

1. 認定放送持株会社と公益性

当社は、放送法に基づく認定放送持株会社です。

メディア産業を取り巻く環境変化にいち早く対応し当社及び当社の子会社(以下、当社グループ)の企業価値を向上させるには、子会社である株式会社フジテレビジョン(以下、フジテレビ)を核としつつ放送以外の周辺事業領域に対しても経営資源の最適な配分を行う必要があります。認定放送持株会社は、こうした対応に最も適した組織形態であると考えています。

当社グループは、我が国を代表するメディア・コングロマリットを目指しており、その実現のためには適切なグループガバナンスが不可欠であると認識しています。

一方、当社は、中核子会社フジテレビが国民共有の財産である電波を預かり放送事業を営んでいること、その社会的インフラとしての役割を果たすために、基幹メディアとしてライフライン機能を維持する緊急災害放送を行うなど、その使命について最大限考慮する必要がありますと考えています。このことは、結果としてグループ全体の企業価値の向上にも寄与するものと考えられます。

したがって、当社は、認定放送持株会社として放送の公共性を重んじ、もって社会的責任を全うする基本理念に基づき、上場企業として会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を追求するためにグループ全体のコーポレート・ガバナンスの体制について検討を続けます。

第2章. 株主の皆様との関係

1. 株主の権利の確保と権利行使に係る環境整備

(1) 株主の権利の確保

当社は、株主総会における議決権をはじめとする株主の権利が確保されるよう努めます。

(2) 株主総会における権利行使に係る環境整備

当社は、株主総会において、株主の権利行使に係る適切な環境整備に努めます。

1. 株主との建設的な対話に関する方針

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のため、株主と建設的な対話を行うよう努めます。

第3章. 株主以外のステークホルダーの皆様との関係

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上のため、従業員、視聴者、取引先、地域社会等のステークホルダーとの良好かつ円滑な関係の維持に努めます。

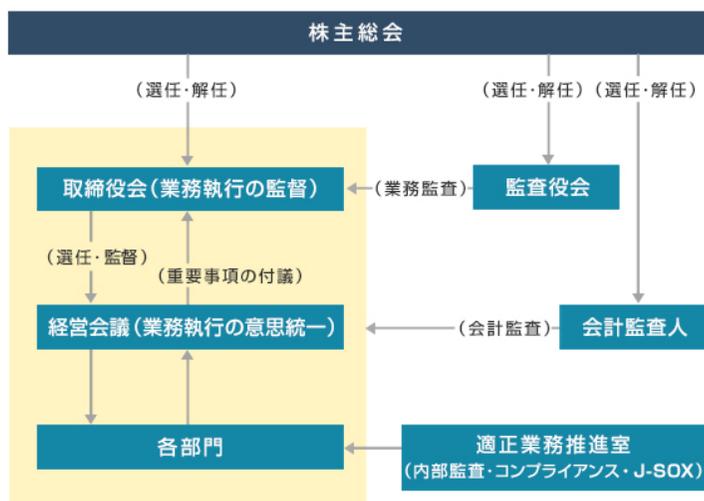
第4章. コーポレート・ガバナンスの体制

1. 会社の機関設計に関する方針

当社は、会社法に規定する株主総会及び取締役のほか、取締役会、監査役、監査役会、会計監査人を置く監査役会設置会社です。取締役の業務執行機能と監督機能を分離させる形態よりも、業務執行者が同時に監督機能を持ち合わせるとともに、事業内容にも精通した社外取締役が業務執行の妥当性を監督し、さらに社外監査役を含む監査役会が業務執行を監査する現行の企業統治形態が、当社グループの企業価値の確保・向上のために最適であるとして採用しています。今後も会社の状況に応じて、最も適切な形態を採用します。

この他に、業務執行の機関として経営会議を設置しています。経営会議は、主に常勤の取締役によって構成され、経営の重要課題に関する協議や取締役会に付議される重要事項等について事前審議を行うとともに、各部門の業務執行の状況に関し情報の共有化を図っています。なお、経営会議には常勤監査役も出席しています。また、内部統制機能を高めるために適正業務推進室を設け、業務の適正化とともに各部門の課題等の迅速な解決に努めています。さらに、持株会社として、グループ社長会を定期的を実施することで、各社の状況把握及び十分な意思疎通を図っています。

当社の業務執行・監視の仕組みは以下のとおりです。



2. 指名・報酬の方針

会社の意思決定の透明性・公正性を確保するよう努めます。

3. 取締役会の役割

- (1) 取締役会の責務
取締役会は、株主に対する受託者責任・説明責任を踏まえ、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を促し、収益力・資本効率等の改善を図るよう努めます。
- (2) 経営戦略の確立と方向性
取締役会は、その責務において、建設的な議論を行い、具体的な経営戦略や経営計画、重要な業務執行の決定等の方向性を決定します。
- (3) 業務執行に対する環境の整備
取締役会は、業務執行に関する提案について十分な検討を行い、承認後は、迅速に業務執行されるよう努めます。
- (4) 取締役会の監督責任
取締役会は、役員の人事、的確な情報開示、利益相反の管理等について監督を行います。

4. 監査役及び監査役会の役割

- (1) 監査役及び監査役会の責務
監査役及び監査役会は、株主に対する受託者責任を踏まえ、独立した客観的な立場において、適切な判断を行い、積極的に取締役会に対して意見を述べるよう努めます。
- (2) 外部会計監査人に対する責務
監査役会は、外部会計監査人が株主に対して責務を負っていることを認識し、取締役会と連携したうえで、適正な監査を確保するよう努めます。

5. 取締役会・監査役会の実効性確保

- (1) 取締役会・監査役会の実効性確保
取締役会及び監査役会による独立かつ客観的な経営の監督の実効性を確保するよう努めます。
- (2) 取締役会における審議の活性化
取締役会は、社外取締役による建設的な意見交換に努めるほか、審議時間を十分に確保する等、審議の活性化を図ります。
- (3) 取締役・監査役に対する情報提供の体制
当社は、取締役・監査役がその役割・責務を実効的に果たせるよう、必要に応じ、情報提供を行う体制を整えます。取締役会・監査役会は、各取締役・監査役が求める情報提供が確保されているかどうかを確認します。
- (4) 取締役・監査役に対するトレーニング
当社は、取締役・監査役がその役割・責務に係る理解を深められるようトレーニングを行います。

6. 独立社外取締役の選任と役割

- (1) 独立社外取締役の選任
当社は、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るために、独立社外取締役を複数名選任します。
- (2) 独立社外取締役の役割
当社は、独立社外取締役を選任するにあたり、自らの知見に基づき、会社の持続的な成長を促し中長期的な企業価値の向上を図る助言を行うこと等を期待します。

内部統制

業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況

1. 業務の適正を確保するための体制

(1) 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、ならびに損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、当社グループが、我が国を代表する「メディア・コングロマリット」となることを目指し、認定放送持株会社として中核となるメディア事業の公共的使命を果たすべく、適正なグループガバナンスを維持し、経営の意思決定の迅速性と事業執行の機動性を高め、あわせて法令・定款遵守とリスク管理の実効性を確保するために必要な体制の整備を行います。

a. 組織体制

当社は、「グループのコンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」（以下「グループコンプライアンス等規程」という）等に基づき、当社グループの関連業務を統括・推進するとともに、当社グループの代表取締役社長を構成メンバーとする「グループのコンプライアンス及びリスクの管理に関する委員会」（以下「グループコンプライアンス等委員会」という）を組織化すること等により、グループ経営に重要な影響を与えるコンプライアンス上の問題およびリスクへの対応を図ります。

b. 教育・研修

当社は、適宜、社内および子会社向けにコンプライアンス等関連の説明会の開催および関連事項の伝達などを行うことにより、当社グループの取締役および使用人へのコンプライアンスならびにリスク管理の重要性の周知と、その理解を促進する活動を行います。

c. 財務報告の信頼性

当社グループは、健全に行われている個々の業務に十分配慮しつつ、コンプライアンスおよびリスクの管理の強化を図るための体制の整備に加えて、金融商品取引法に基づき、財務報告の信頼性を確保するための内部統制システムの構築に努めます。

d. 内部監査

当社は、「内部監査規程」に基づき、当社グループにおける内部監査の実施状況および内部管理体制の状況等の定期的なモニタリングを行います。これによって、当社グループの業務全般が法令、定款および社内規程ならびに経営方針に照らして、適正かつ有効に行われていることを確認します。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

当社の取締役の職務の執行に係る情報については、これに係る当社の管理規程に基づき、その保存媒体に応じて適切かつ確実に検索性の高い状態で保存・管理し、所定期間、閲覧可能な状態を維持することとします。

(3) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社の取締役は、当社グループの効率経営の確保に向けて、業務の合理化・迅速化等を継続検討します。当社は、当社グループ全体の経営計画を策定し、当社グループ各社から業績の報告を受ける等の方法により、経営計画の実施状況をモニタリングします。

(4) 当社およびその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、当社グループから成る企業集団における業務の適正を確保するために、グループコンプライアンスとそのリスク管理およびグループの経営管理に関して、それぞれの専門部署を置き、体制構築を推進します。

- 当社は、当社子会社の経営内容を的確に把握し、事業活動の健全な発展に資するため、定期的かつ継続的に子会社から報告を受ける等の方法により、企業集団内での情報共有の強化を図ります。
- 当社は、当社子会社がその業容と会社規模に応じ、自律的にコンプライアンスおよびリスクの管理が機能する体制の構築を推進するとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼすリスクへの対応については、当社が状況を的確に把握する体制を構築します。
- 当社は、当社子会社において効率的な業務執行が行われるよう、「関係会社管理規程」等に基づく横断的な管理を推進します。
- 当社は、グループコンプライアンスを推進する専門部署を置くとともに、「グループコンプライアンス等規程」を通じて、企業倫理の確立ならびにグループコンプライアンス体制およびリスク管理体制の構築を推進します。また、当社の取締役および使用人、ならびに当社子会社の取締役、監査役、業務執行社員、職務執行者および使用人（以下「当社グループの取締役および使用人等」という）が活用可能な内部通報制度を整備し、より一層のグループコンプライアンスの実効性の確保を目指します。

(5) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、監査役がその職務を補助する使用人の取締役からの独立性および当該使用人に対する指示の実効性に関する事項

当社の監査役は、「監査役会規則」に基づいて監査役スタッフを任命します。監査役スタッフは、監査役会の招集事務、議事録の作成、その他監査役会の運営に関する事務および監査役の職務を補助します。なお、これら業務については、職務分掌において、当社の総務部が担当することを定め、監査役スタッフは当社従業員として当社の就業規則に

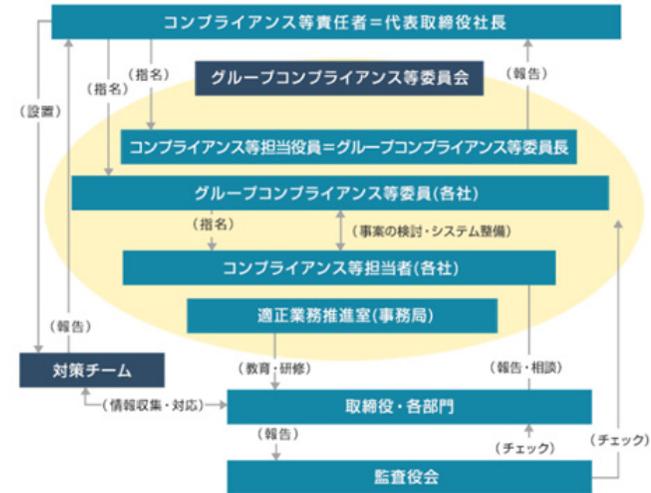
従いますが、原則として、その指揮命令権は各監査役に属し、取締役は監査役スタッフに対する指揮命令権を有しないものとします。また、監査役スタッフの人事考課、人事異動および懲戒等については、監査役会の意見を徴するものとします。

(6) 当社グループの取締役および使用人等が当社の監査役または監査役会に報告を行うための体制

当社グループの取締役および使用人等が、当社の監査役または監査役会に報告を行うための体制について、以下の通り整備・実施します。

- a. 当社グループの取締役および使用人等は、以下に定める事項について適宜報告を行います。
 1. 業務または財務に重大な影響を及ぼすおそれのある事実（当社グループ各社に関するものを含む。）を知った場合。
 2. 取締役および使用人の職務遂行に関して不正行為、法令・定款・社内規程に違反する事実（当社グループ各社に関するものを含む。）を知った場合または社会通念に反する行為が発生する可能性がある、もしくは発生した場合で、当該事実または行為が重大である場合。
 3. その他緊急・非常事態を知った場合。
- b. 当社グループの取締役および使用人等は、当社の監査役または監査役会に対し、当該当社グループ各社における以下に定める事項について定期的または必要に応じて報告を行います。
 1. 毎月の月次会計資料
 2. 内部監査報告書および各部門からの主要な月次報告書
 3. 重要な訴訟事案
 4. 内部統制に関わる部門の活動概要
 5. 重要な会計方針・会計基準およびその変更
 6. 業績および業績見込みの発表内容、重要開示書類の内容
 7. 営業の報告
 8. 監査役の活動概要
 9. その他重要な事項等
- c. 当社グループの取締役および使用人等は、当社の監査役または監査役会からその職務の執行に関する報告を求められた場合、速やかに当該事項を報告します。
- d. 当社グループの取締役および使用人等が（1）（2）（3）に該当する報告を当社の監査役または監査役会に対して行ったことを理由として、不利益な取り扱いを受けることがないことを社内規程等に定めます。
- e. 監査役の職務全般にかかる費用は当社が負担するものとします。

当社の内部統制の仕組みは以下の通りです。



2. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当期における運用状況の概要については以下のとおりとなります。

(1) 取締役の職務執行

当期は取締役会を11回開催し、経営方針等の重要事項について審議・決定するとともに、取締役の職務執行について報告を受けました。取締役会にはすべて、当社の社外取締役および監査役が出席しています。業務の執行に関しては、最高執行責任者である代表取締役社長を中心に、業務執行取締役が効率的かつ迅速な意思決定を行っています。

(2) グループコンプライアンスに関する取組み

当社グループ各社の代表取締役社長を構成メンバーとする「グループコンプライアンス等委員会」を2回開催し、グループ全体のコンプライアンスおよびリスク管理に対する意識の向上を図りました。また、当社グループ各社のコンプライアンス担当役員および実務担当者のそれぞれを対象とした会議を2回開催し、当社グループ内におけるコンプライアンスおよびリスク管理に関する情報共有を行いました。また、年度に一度コンプライアンス活動に積極的に取り組んだ会社を報奨し、グループ全体におけるコンプライアンス意識の醸成に努めています。

(3) 内部監査の実施

「内部監査規程」に基づき、当社内部監査部門が「内部監査計画書」を作成し、当社グループ各社を対象とした実地ヒヤリング監査を行いました。監査結果については、当社社長に対して報告を行うとともに、その概要を当社グループ各社へフィードバックしました。

(4) 監査役の職務執行

当期は監査役会を8回開催し、監査方針や監査計画を協議、決定しました。監査役は、監査役会において定めた監査計画に基づき監査を行うとともに、当社の取締役および当社子会社の代表取締役社長を対象とした面談を実施し、その職務執行に関する報告を受けました。また、当社の会計監査人および内部監査部門ならびに当社グループの常勤監査役との間で、意見や情報の交換を定期的に行いました。さらに、各監査役による職務執行が円滑に遂行されるよう、監査役会が監査役会規則に基づいて選任した監査役スタッフが、監査役会の招集事務、議事録の作成、その他監査役の運営に関する事務および監査役の職務を補助しています。

コンプライアンス

コンプライアンス方針

当社グループは、「放送事業」を中核に、多様な業種・業態からなる「認定放送持株会社」です。放送事業では国民の共有財産である電波を使用し、様々な番組を制作して送り出しています。それだけにグループ全体が常に社会全体に思いを馳せ、「高い法令遵守の意識」「使命感」「倫理観」を持ち続けなければならないと認識しています。

また当社グループは、社会からの信頼を失墜しないために「コンプライアンス体制」の確率が何より重要と考えています。一般的に「コンプライアンス＝法令遵守」と理解されますが、それにとどまらず、例えば放送業界における民放連の「放送基準」「報道指針」のような、それぞれの業種・業態ごとのガイドラインやルール、さらに各社の「内規」や「企業倫理」についても重視しています。

コンプライアンス体制

当社グループでは、「グループのコンプライアンス及びリスク管理等に関する規程」に則り、グループ各社は「コンプライアンス方針」「必要な体制」を整備し、社内での様々な取り組みを行っています。それに加え、当社グループでは合同のセミナーなどを通じて、グループ全体の意識の向上に努め、社会からの信頼に常に誠実に応えていきたいと考えています。

コンプライアンスの取り組み

教育・研修の取り組み

- 当社グループ各社のコンプライアンス役員が参加する「グループコンプライアンス等担当者会議」、実務を行うメンバーによって構成された「グループコンプライアンス等実務者会議」のそれぞれを年2回実施しています。「グループコンプライアンス等担当者会議」は、当社グループ各社に関連する最新の法令・規制動向の情報共有や、コンプライアンスの取り組みに関する情報共有を行います。2016年度は、増田英次弁護士より、コーチングや心理学を利用し「社員をいかに主体的にコンプライアンスを守る人材に育てるか」について講演を頂きました。
- フジテレビが自社で実施したeラーニングによるコンプライアンス研修は当社グループ各社へも提供されており、その実施範囲は毎年拡大しています。



意識向上の取り組み

2015年度より、コンプライアンスの向上に努力した当社グループ各社に対し、「コンプラがんばった大賞」を授与しています。

- 2016年度大賞 (株)ニッポン放送 (受賞理由) サイバーテロ対策等
- 2015年度大賞 (株)フジアール (受賞理由) 障害者雇用の促進
- (株)NEXTEP (受賞理由) 労働環境改善への取り組み



2016年度を受賞会社
(株)ニッポン放送

グループ内部通報制度の充実化

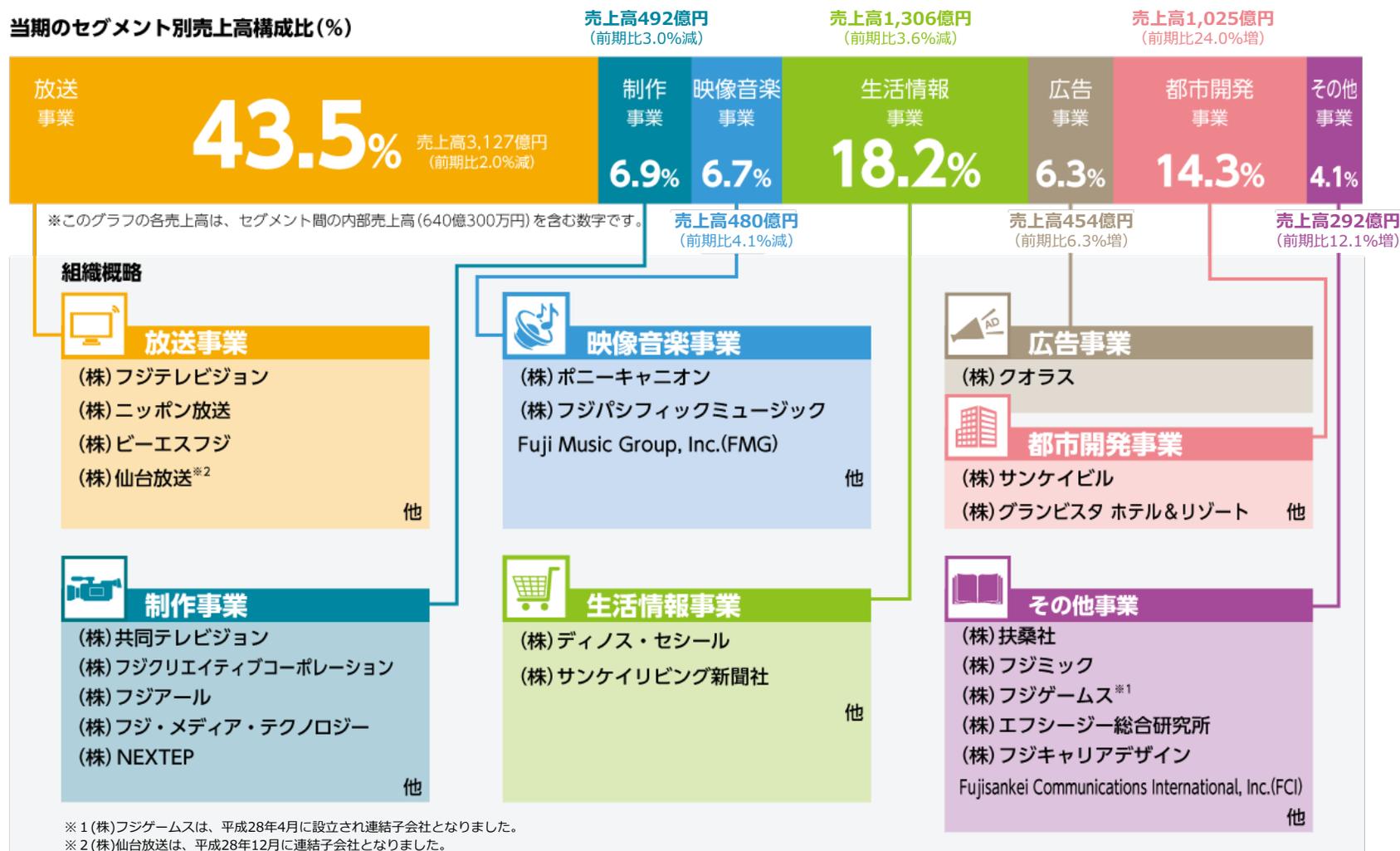
当社グループが一体となってコンプライアンス活動を推進するため、各社で働く方が利用可能な「FMHグループ内部通報制度」を整備し、併せて、円滑な運用と活動促進のため、「FMHグループ内部通報ガイドライン」を作成し、グループ各社内での周知を行っています。

財務サマリー

Financial Summary

(株)フジ・メディア・ホールディングスは、放送事業を中心に、映像音楽、生活情報、都市開発など7つの事業セグメントで構成されています。事業面で緊密な関係を有する関連会社をはじめ、フジサンケイグループ各社と連携して幅広い領域で事業を展開するとともに、文化・芸術を通じた社会貢献活動に取り組んでいます。

当期のセグメント別売上高構成比(%)



業績ハイライト

業績のポイント

- 売上高は好調な都市開発事業が他の減収セグメントをカバーし増収。
- 営業利益は放送事業、映像音楽事業、生活情報事業などが振るわず減益。
- 経営利益も減益となったが、親会社株主に帰属する当期純利益は負ののれん発生益が計上され増益。



連結売上高は、都市開発事業において住宅事業が好調だったほか、保有不動産の売却益等が大きく貢献し、前期比2.1%増の6,539億76百万円となり、過去最高の売上高となりました。しかし、連結営業利益は、放送事業が(株)フジテレビジョンの放送収入が減少等から減益となったほか、映像音楽事業、生活情報事業等も減益となり、連結全体で前期比8.5%減の223億19百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、(株)仙台放送の子会社化に伴う負ののれん発生益が特別利益に計上されたことなどから、前期比20.0%増の273億96百万円となりました。

会社概要



商号	株式会社フジ・メディア・ホールディングス FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.
事業内容	認定放送持株会社
事業所	本社 〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号
設立	1957（昭和32）年11月18日 株式会社フジ・メディア・ホールディングスは、2008年10月1日付けで、 認定放送持株会社への移行に伴い、「株式会社フジテレビジョン」から商号変更し、 「株式会社フジテレビジョン」の事業は新設の「株式会社フジテレビジョン」が承継しました。
資本金	1,462億35万円
連結従業員数	8,049名（2017年3月末現在）
代表者	代表取締役会長 嘉納 修治 / 代表取締役社長 宮内 正喜